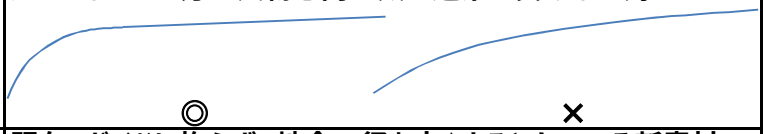
BJS MS-53Uのチューニングについて（MSチューンー53TL）
この竿の完成度の高さは言うまでも無いが、私は自分の釣りスタイルに更にマッチさせる為改造使用しています。

主な改造点		目的
Uガイドの廃止	穂先以外はチタンSICテレガイドに変更	頻繁なラインの出し入れにUガイドは消耗が早い。 狙うターゲット(イシダイ等)によっては強度不足。 超前や深いフィールドでのライン出しを有利にする。 仕掛けのセットがしやすい。
穂先の交換	より柔らかいものに交換	アタリを視覚で捕らえやすくする為、トップの変化量を大きくする。

このスタイルでの発表が可能と言うことで、これまでに感じた点を以下の様に提案します。

提案	目的
リールシート位置と材質(チタン)の変更	持ち重りの感覚を減少させる為、気持ちエンドから距離を取る。
バットの変更	やりとり時の肘抜けを無くす為、やや太くし形状も含め滑り止めの工夫が必要。注：某メーカーのスタイルは×カッコ悪い！
視覚感度の良い穂先の装着(グラス可)	前打ちは穂先が命です。感度とは振動を伝えるものみのならず、視覚に有利な事が重要です。下に極端な例を図示しました。穂先の材質はグラスでも可、径が太くてもしなやかであれば、むしろこの方が大物志向の太い道糸に負けない為OK  ◎　　×
穂先Uガイドの強度について	既存Uガイドに拘らず、地金の径を太くするとかいっそ新素材(SIC等)で出来ないものか?既存Uガイドの長期使用では必ず糸による溝が出来ます。＊今回は既存Uガイド使用
穂先以外チタンSICテレガイドの取付位置について	現在使用している改造竿を2本送り検討。1本は既存Uガイド位置をキープしたもので、もう1本はガイドを2か所増やしています。メーカーの技術力でパワー抜けの最も良い位置する。
更なるパワーアップ	言わずもがな、この竿は前打ちの最高峰だと自負しています。具体的に言えば三大メーカー（D、S、G）の中で最強なのは言うまでもなく、トータル的に見て他社製品に引けを取らない物が求められます。

改造ＭＳでの実績

２００６年7月２９日（名古屋港中央堤）

名古屋港を代表するクロダイスポット「中央堤」での釣果３人で５２枚(内私は２２枚)。全てがMSでの釣果では無いが、この日の様に食いが良い場合にはＭＳでの超強引なやりとりで手返しが良く、次の１枚を素早く追及することが出来た。
＊東海釣りガイド０６年１０月号カラーグラビア掲載

2006年7月26日（名古屋港中央堤）

クロダイばかり狙っても・・・・・
たまには目線を変えてマゴチ狙い。60cmクラスまでを難なく取り込み成功。なんといっても狙った位置へ超前しやすい（テレガイド改造済）のが釣果に反映する。

2006年10月21日（御前崎）

テトラから良型イシダイ49cmのぶっちぎりに成功。前打ち竿としては異例のパワーを再確認したが、欲を言えばもう少し欲しい。クロダイは敵では無い。

2006年11月9日（和歌山県小浦一文字）

和歌山のスーパー堤防へイシダイ前打ち釣り。水深15mの底からひっぺがしたコイツは55cmで第138回サンスポ釣り大会の惜しくも2位だった。（1位はホンチャン仕掛け）
やりとりでほぼ限界まで曲ったMSに更なる信頼感を持つことができたが、これ以上のサイズがこの竿で獲りたい欲求に満たされる。どうだろうか？

２００６年１１月１８日（和歌山県小浦一文字）

この日は３人で出かけ私が６０ｃｍのギンワサをゲット！釣友も見事に５０オーバーを仕留めることができた。下がその時のやりとりだが、ここから更に竿を占め込む展開があり、我ながら良く獲れたと思う。最近色々な方からＭＳについての質問を多く受ける様になったが、中でも驚いたのはＭＳが折れてしまったからもっと良い竿はないか？という内容のもので、詳しく聞くと大きいと直感し、とにかく竿を立てようとして、折れたのは＃２で魚とのやりとりの最中におきたと言う。初心者にありがちのケースですね。昨今は形から入るスタイルが主流なのだろうか、そりゃ～立て過ぎでしょうと思うのです。ＧＴ-Ｒを初心者がコースも読まずにアクセル全開すれば事故も起きますよと言ってやりました。とは言っても夢として、誰でも全開にできる竿があれば欲しいと思うのは事実ですね。
＊東海釣りガイド０７年２月号カラーグラビア掲載

2007年1月27日（名古屋港）

クロダイでは相変わらず敵無です。MSはここ一発といった様な時に、狙った位置からクロダイを引きずり出すのが苦にならず、又、その後もただ単に硬いだけでなく、適度にその曲りで引きを吸収してくれます。

2007年5月15日（名古屋港）

クロダイばかり狙っても・・・・・
ガイドを2つ追加（テレガイド改造済）し、試し釣りとして一応この竿を満月にできるターゲットとしてスズキ狙い。70cmクラスまでを難なく取り込み成功。ただバレた時に飛んでくる仕掛けが真正面に来るケースが増え、おかげで＃2にクリーンヒットし破損してしまった。

2007年7月28日（大阪港）

T超硬36-42とのコンビ釣果、クロダイには相変わらず敵無です。ロッドパワーも40cmクラスのクロダイは軽く抜き上げる事が可能ですが、皆さんは真似をしない様に^^

2007年8月15日（大阪港）

上と同じく大阪南港バラ石テトラでの釣果。テトラの穴も前もOK

2007年9月23日（清水港）

最近は船から前打ちを楽しんでいます。今回は静岡県清水港内でサンバソウ狙いに来たマダイの70cmオーバー！獲れました！　　＊東海釣りガイド08年3月号記事掲載

2007年11月3日（清水港）
上と同じスタイルでイシダイ50オーバー！獲りました。
＊東海釣りガイド08年3月号記事掲載

マダイ76cm！前打ち冥利に尽きます！

今回のレポートではほぼ全て改造ＭＳでの実釣によるものですが、これが市販（MSチューンー53TL）されるとなると私を含めこの釣りを嗜む者からは相当な期待が込められると思います。それほどこのジャンルの釣りに適した竿が無かったと言えます。その先駆を切って登場するモノは保守派からはある意味奇抜に映るかもしれません。しかしその中には実釣から得られた本質が確立されています。「奇抜は風化するが本質は残る」と言う様に、このスタイルの進化は今後の主流に成ると信じています。　コンセプトとして我々のイシダイの前打ち釣りはあくまでクロダイ釣りの延長戦上のもので、ギリギリのスリルを楽しむものです。したがって名古屋釣法のメリットは全て継承し、且つタックルのバランスは過去からの改造を重ねた試行錯誤の結果です。そして実績を残してきたつもりです。具体的に述べれば、道糸は4号以下、ハリスは5号以下、ロッドは磯3号未満、それ以上は前打ちとは呼ばず、もはやズボ釣りでしょう。当然繊細な誘いや行動力はスポイルされますしね。掛ったイシダイを確実に獲るのであればホンチャンには敵いませんが、このスタイルの限界に挑戦したいのです。そしてMSチューンー53TLは期待に答えてくれるでしょう。またイシダイに限らず今までの前打ちの範囲外のターゲットにも色々楽しめると思います。
ナイロン道糸とカーボンハリスとそれなりのロッドがあればここまで出来ると言う証明を、前回までのレポートも合わせて見て頂けたら幸いです。
最後に価格設定について、前打ちロッドとしては異例に高価だとする意見もちやほや聞かれますが、現行MSの改造に費やすチタンパーツと手間、そして更にパワーアップした本体を考えると、実売4万ちょっとのこのロッドは決して高くは無いと思いますが如何でしょう？
2008年5月

東海波止釣研究会　代表　石見和則